

平成 30 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書
(抜粋)

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 報 告 書	1
・ 決 算 報 告 書	13

事業報告書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総 括 事 項	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	
(1) 文化財発掘調査	4
(2) 埋蔵文化財啓発活動	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家	5
(2) いわき市暮らしの伝承郷	5
(3) いわき市勿来関文学歴史館	6
(4) いわき市アンモナイトセンター	6
(5) いわき市考古資料館	7
(6) 福島県いわき海浜自然の家	7
(7) いわき市生涯学習プラザ	8
(8) いわき市勿来勤労青少年ホーム	8
3 管理部門（法人会計）	10
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評 議 員 会	11
2 理 事 会	11
3 役員等に関する事項	11
IV 職員に関する事項	
1 事 務 局	12
2 施 設	12

I 概 況

1 総括事項

平成30年度は、本事業団の設立から40周年を迎えたことから、今まで以上に公益法人としての役割を認識するとともに、専門性を生かし、職員一丸となって市・県民の心の支えとなるように様々な事業を展開した。

理事会は4回、評議員会は1回開催し、財務に関しては収支相償に留意しながら、公正・公平で透明な事業運営に努めた。

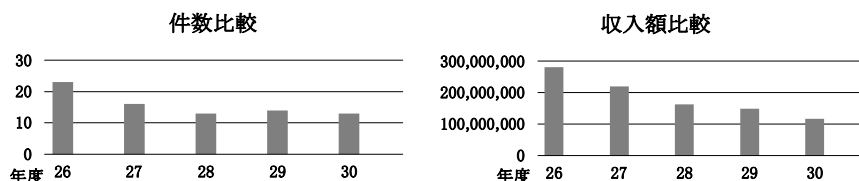
文化財部門は、東日本大震災後の各種復興事業の収束に伴い、市内の発掘調査が激減している。市内のほか、双葉郡内や矢祭町などからの事業も受託した。事業量は、前年度より1件減の13件ではあるが、収入額は3,150万円程少ない、約11,700万円となった(下表)。

施設部門は、4月1日から、新たに勿来関文学歴史館の指定管理者となり、教育文化施設及び社会教育施設合わせて9施設の管理・運営を行った。また、草野心平記念文学館・心平生家・暮らしの伝承郷・アンモナイトセンター・考古資料館及び福島県いわき海浜自然の家においては、指定管理期間満了を迎え、新たに申請を行い、平成31年度から次期5か年の指定管理が決定したところである。しかし、3月31日をもって、市における勿来勤労青少年ホームの組織改変により、当館の指定管理業務が終了した。

本年度の収入は55,170万円となり、経費の節減に努め、約800万円の黒字決算となった。

○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較 (26～30年度)

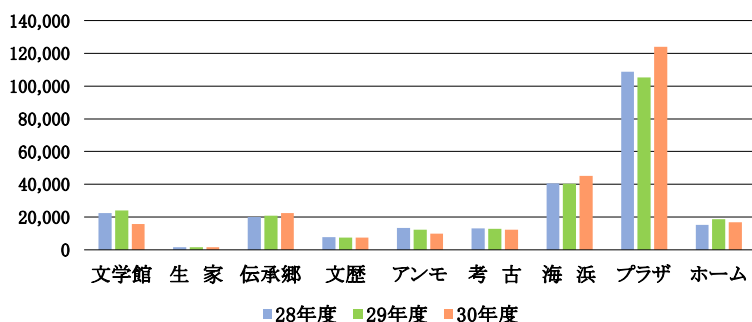
年度	26	27	28	29	30
契約件数 (単位:件)	23	16	13	14	13
収入額 (単位:円)	281,235,210	219,915,000	162,388,800	148,185,720	116,742,600



○ 施設年間利用者数比較 (28・29・30年度) ※勿来関文学歴史館の28・29年度は指定管理受託前。

	文学館	生家	伝承郷	文歴	アンモ	考古	海浜	プラザ	ホーム	合計
28年度	22,469	1,573	19,941	7,631	13,319	12,932	40,566	108,664	15,242	242,337
29年度	24,116	1,408	20,767	7,529	12,162	12,821	40,194	105,209	18,751	242,957
30年度	15,787	1,571	22,424	7,494	9,729	12,204	45,020	123,958	16,884	255,071

年間利用者数比較



Ⅱ 業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

平成30年度に受託した事業は、13件である。事業内訳は、いわき市内が6件（発掘調査2件、確認調査2件、資料整理・報告書作成2件）、市外が7件（矢祭町の発掘調査1件、資料整理・報告書作成2件、檜葉町の資料整理・報告書作成2件、大熊町の資料整理1件、広野町の資料整理・報告書作成1件）である。

発掘調査等における主な成果として、専称寺境域では開山堂と推測される建物跡の礎石、梅ノ作瓦窯跡群からは、窯跡の存在が推測される地点が検出された。また、矢祭町の割目遺跡では平安時代の集落が検出された。

埋蔵文化財調査報告書は、概報を含め6冊を刊行した。

(2) 埋蔵文化財啓発活動

ア 企画展共催

実施月日	実施項目	内 容
7月18日(水) ～8月31日(金)	いわき市考古資料館 平成30年度第2回企画展 「平成29年度発掘速報展」	平成29年度にいわき市内で発掘調査や試掘・確認調査及び整理報告書作成が行われた遺跡のうち、16遺跡19件の調査成果を一般に公開し、いわきの歴史について最新の情報を提供した。 入館者 1,412名
7月21日(土)	「遺跡報告会・展示解説会」	「平成29年度発掘速報展」の関連事業として、試掘・確認調査等が実施された2遺跡の調査成果について、各調査担当職員が報告した。また、展示会場で資料の解説をした。 参加者 報告会17名 解説会19名
9月19日(水) ～1月10日(木)	公益財団法人いわき市教育文化事業団設立40周年記念特別展「石城国建国千三百年展－いわきの始まり－」	718年(養老3)に現在のいわき市を中心とした範囲に「石城国」が設置されてから、平成30年度で1,300年となることから、根岸官衙遺跡群の調査成果を中心に旧石城国の官衙遺跡について展示した。 入館者 2,626名
10月6日(土)	特別展展示解説会	「石城国建国千三百年展－いわきの始まり－」関連事業として、根岸官衙遺跡群の発掘調査担当職員が展示内容の解説をした。 参加者 19名

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家

ア 事業について

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は15,787名、昨年比8,329名の減、年間開館日数は312日間であった。

平成30年度は、春、夏、秋、冬と4つの企画展を開催した。

春の企画展「没後30年記念 草野心平の校歌」は開館20周年を記念し、心平が作詞した100校以上の校歌を、音源とともに紹介した。夏の企画展「宮沢賢治展—賢治の宇宙 心平の天一—」は、宮沢賢治の生涯と作品世界、草野心平の詩想を「雨ニモマケズ手帳」をはじめ貴重な資料で紹介した。秋の企画展「生誕120年記念 猪狩満直展」は、満直の生涯と、彼の作品の魅力、そして満直の北海道での文学活動を紹介した。冬の企画展「没後30年記念 草野心平の居酒屋『火の車』もゆる夢の炎」では、心平にとって仕事と同時に創作の場であった居酒屋「火の車」の開店前後を紹介した。

スポット展示は、「草野心平の故郷小川町」「吉野せい」「草野天平 松禅院での詩作」、そして、特別スポット展示「賢治と心平の手紙」を開催し、心平の創作活動の一面やいわきゆかりの文学者、資料、交友を紹介した。

普及活動では、夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。あわせて、「アクアマリンふくしま移動水族館」、小川中学校吹奏楽部による「アトリウムコンサート」などで文学館が立地する小川地区の団体と連携を図った。

いわき市草野心平生家

年間入館者数は1,571名、昨年比163名の増、年間開館日数は312日間であった。

通常の開館時はボランティアの会員が心平と故郷のかかわりを解説し、小川小、中学校の参加が定着した「心平誕生月の記念朗読会」をはじめ、心平を顕彰する「心平忌・心平を語る会」、親子連れなどが楽しめるワークショップ「カエルのパラパラアニメワークショップ」、そして、心平の弟天平を偲ぶ「草野天平の集い」などを開催した。

(2) いわき市暮らしの伝承郷

ア 事業について

平成30年度の入園者数は22,424名で、前年度比1,657名約8%の増であった。

伝承郷の中心事業である景観復元・伝承・管理作業は、「昔の暮らしの景観復元と伝承」をコンセプトに実施し、平成30年度も畑作・里山作りのほか、干し柿作りなど古民家の生活復元展示を実施した。畑作については、栽培する野菜や道具等も、景観復元展示の一環と位置付け、極力昔の方法・道具を取り入れながら実施した。

常設展示事業では、見学資料として、ワークシート「ワクワク探検in伝承郷」を通年で配布した。

学習管理棟の休憩コーナーでは、季節の年中行事に合わせた民具展示のほか、「ロビー展」として「ラジオの歴史展」、「平七夕祭りのいま・むかし展」、「龍生派いわき支部生け花展」などを実施した。

企画展示事業では、3回の企画展「伝承郷収蔵品展—明治・大正・昭和の衣類—」、「昭和10年代のいわきの年中行事写真展」、「津軽こぎん刺し—塩谷美江作品展2—」、特別展「古民家模型展パート4」を開催した。特別展では、全国の特徴的な古民家模型を展示し、建築関係や古民家愛好家にも好評であった。

講演会事業は、「やまとなでしこ講座」、「16mmフィルムが映す昭和11年のいわきパ

ート2」を開催した。

体験学習事業では、「けん玉道場」などの昔遊びや「布ぞうり作り」「正月飾り作り」など、季節に合わせた内容で年間29回実施した。また「昔遊び体験」「石臼体験」などの学校向け体験や「キッズ民話語り部教室」など、小中学生対象の体験も多く実施した。

伝承郷行事事業では、伝統行事の再現展示や伝統芸能実演など伝統芸能の継承・伝承の機会を提供した。

そのほか、ボランティア育成、資料収集・整理作業、民俗調査・レファレンスなどを実施した。

(3) いわき市勿来関文学歴史館

ア 事業について

年間入館者は7,494名で、前年度比35名の減であった。年間開館日数は352日である。

平成30年度は、3つの企画展を開催した。

第1回企画展「関松山松山寺の宝物と勿来の歴史」は、いわき市南部を代表する寺院である松山寺の宝物を展示し、あわせて勿来地区の歴史を紹介するもので、貴重な古文書等を初めて見たという来館者も多く、新たな勿来の魅力の提示となった。あわせて実施した、三十三観音巡り(勿来地区)や講演会にも多くの参加者があった。

第2回企画展「西山宗因といわき」は、当館所蔵の「西山宗因奥州紀行巻」をもとに、宗因のいわきでの足跡をたどった。また大東急文庫より磐城平藩主内藤風虎が編集させた『桜川』を借用し展示し市民に公開することができた。あわせて、企画展関連の講演を2本実施し企画展への理解を深めた。

第3回企画展「いわきの雛の吊し飾り」は、いわき市平にあった「塩屋呉服店」に伝わる明治時代から大正時代の「雛の吊し飾り」を展示し、あわせて吊し飾りの歴史的文化的な意味について紹介した。冬期間にも関わらず昨年度以上の来館者があり、いわきにもこのような雛の吊し飾りが行われていたことへの理解と関心が深まった。企画展の関連事業として、講演会と勿来関ひな祭句会を開催し好評を博した。

スポット展示は、勿来地区ゆかりの著名人、「星一」「諸根樟一と諸根慶子」を取り上げた。地元の方々や故人ゆかりの方々が多数来館され、郷土の著名人についてあらためて理解を深めることができた。

普及活動では、「夏休み工作教室」「冬休みクラフト教室」を実施した。親子での参加が多く世代間の交流を通してものづくりの楽しさを体験することができた。

勿来地区との連携では、「勿来関歌会」や「勿来八景フォトコンテスト」へ館長賞を授与し、また作品の展示会場を提供する等の連携を図った。

指定管理受託に伴い新たに「勿来関文学歴史館事業懇談会」を設置した。委員7名で、勿来支所、関田区、学校、まちづくり団体、勿来の関を守る会、学識経験者からなり、今年度は2回の委員会を開催し、有意義な意見・提案をいただいた。

(4) いわき市アンモナイトセンター

ア 事業について

平成30年度における入館者数は、前年度比2,433名減(前年度比80.00%)となる9,729名であった。入館者数が減少した理由として4～6月に行った露頭整備工事に伴う体験発掘の中止や7月の猛暑、2月の厳寒といった気象条件により入館者数が伸び悩んだことがあげられる。特に5月の大型連休中の入館者が少なかったことが主な要因となっている。一方、例年の傾向として晩秋～冬季(第3四半期後半～第4

四半期)の利用者数が伸び悩んでおり、前年度に比べて若干の改善傾向を示すものの、同時期における利用者増に向けた試みが依然として課題となっている。

小・中学校の夏休み・冬休み期間をターゲットとして開催した企画展における入館者数は、夏休み企画展で4,478名(前年度比1,222名増)、冬休み企画展で1,022名(前年度比510名増)となった。企画展会期中に実施したミニ発掘体験(モロッコ産ノジュールからのオルドビス紀三葉虫化石の発掘体験)は、取り出した本物の標本を持ち帰ることができることもあり、これらを目的として来館する利用者も多かった。

更に、地元である久之浜・大久地区との連携事業としての「化石講演会」、啓発事業としての「親子自然探訪教室」を実施した。

(5) いわき市考古資料館

ア 事業について

平成30年度の利用者数は12,204名で、昨年度比617名の減となった。内訳を見ると、入館者数は9,732名で昨年度比1,905名の減、出前講座などの館外利用者数は、44件2,472名で昨年度比16件1,288名の増であった。また、団体入館者数は69件1,985名で、昨年度比2件の減、326名の増であった。

企画展は、通常の企画展3回とミニ企画展1回のほか、特別展1回の計5回開催した。特別展は、公益財団法人いわき市教育文化事業団設立40周年記念事業として取り組んだ。

講座・講演会は、「いわきの考古学講座」全6回、「親子で自由研究に挑戦しよう!!」、「ボランティア養成講座」及び企画展・特別展に合わせた講演会や解説会、探訪会など計18回開催した。

体験学習会は、「ゴールデンウィーク体験学習会」、「夏休み体験学習会」、「いわきキッズミュージアム」、「古代まつり」、「干支の埴輪づくり体験会」、「勾玉づくり体験会」、そして、「バレンタインデー特別体験学習会」など7事業27日間開催した。

当館の重要な業務のひとつである問い合わせ等レファレンス対応として、収蔵資料の閲覧・調査13件、同貸出16件など、市民及び研究者や学生、関係機関の要望に対応した。また、8月には3名の学芸員実習を実施した。

このほか、経年劣化が原因の雨漏りや設備の故障などが頻発しており、所管課と協議の上、可能なものについては随時修理・修繕を行い、施設の維持・管理に努めた。また、Facebookを利用し、ホームページ内容の充実に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

ア 事業について

平成30年度の利用状況は、536団体延べ45,020名を数える。震災前の平成22年度(546団体66,611名)に比べると、平成29年度は60%であったが、平成30年度は67%と、わずかであるが回復傾向が認められる。一方、団体数では3年連続で500団体を超え、震災前の団体数に近づいている。利用者は、延べ人数で昨年度を4,826名上回っており、今後は新規利用者の拡大とともに、リピーターの定着化を図ることも重要な課題と考えられる。

事業では、「春・秋のオープンデー」や「クラフトのつどい」「スポーツフェスティバル」などで施設を一般に開放し、当施設について広く県民に周知され理解を深めていただくことができた。

また、会津自然の家のウィンターフェスティバルに参加し、県内の他の自然の家との連携を深め、市内でもいわき市生涯学習プラザの生涯学習フェスティバルや公民館の出前講座などとの連携を図り、利用者の拡大に努めた。閑散期の利用促進については、今年度も地元高校生の吹奏楽部による「森の音楽会」を実施し、この時期の恒例事業でもあり、多くのリピーターを得ることができた。

これら各種事業については、広報チラシ・ポスターの配布をはじめ、四倉と久之浜・大久各支所経由による回覧板を有効に活用した。ホームページにおいても事業案内及び実績報告等を随時掲載して広く県民への周知を図った。

また、職員の資質向上を図るため、所内外の各種研修へ参加し、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(7) いわき市生涯学習プラザ

ア 事業について

平成30年度の施設利用者は123,958名で前年度より18,749名の増、施設使用許可申請件数は1,003件増の3,769件であった。このうち社会教育関係団体の申請件数は2,851件で904件の増となっている。この大幅な増加の主たる要因は、耐震補強工事に伴い休館となった中央公民館登録団体が活動の場を当館に移したことによるものだと考えられる。

市民講座は、53の講座を実施した。生涯学習プラザ講座のほか、ボランティア活用事業として、子育て支援ボランティアによる「プラザおはなし会」「子どもと遊ぼう」やITボランティアリーダーによるパソコン講座を毎月開催し、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークル・団体が実施するサークル企画講座では、「朗読教室」「歌唱法講座」「水墨画講座」「和紙ちぎり絵講座」「絵手紙講座」「謡曲・仕舞入門講座」を延べ11講座開催した。

全市民的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、「健康ライフ学部」「健康福祉学部」「生命環境学部」「いわき学部」の4学部を開設し、375名の入学者があった。健康ライフ学部では、受講者が200名を超えるなど、市民の学習ニーズにあった学部を開講できた。

第14回「生涯学習フェスティバル」には、3,371名の入館者があり、市内の大きなイベントと重ならない期間に開催日を設定したこともあり、前年度より参加者数が増となった。オープニングセレモニーでのいわき濤笛会による篠笛演奏や民話の語り部講座受講者による昔話の語り、防災体験コーナーやプラザ利用団体の各種展示や発表など、幅広い年齢層を対象に、多くの市民へ学習の場・交流の場を提供することができた。また、いわき市教育文化事業団40周年記念事業として、特別展「いわきの歴史・文化発信40年史」と記念講演を開催し好評を博した。

いわきヒューマンカレッジや生涯学習フェスティバルの運営や講座の開催にあたっては、いわき市生涯学習支援ボランティアの会の支援があり円滑に運営することができた。

事業の広報については、年間事業案内のほか、講座・イベントごとの詳細な案内チラシを作成し、市内公共施設での配布のほか、ホームページやFacebook等のメディアで情報提供を行った。また、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(8) いわき市勿来勤労青少年ホーム

ア 事業について

平成30年4月1日に、1年間のみの契約で市から指定管理者として受託した。利用者数は16,884名で、昨年度と比べて1,867名、10%弱の減とはなったが、アクションプランに掲げた年間目標の16,500人を上回る利用者となり、多くの市民に利用された。

教養講座は、年間講座14講座を実施した。講座参加者総数は、1,450名であり、昨年度より157名減少した。その主な理由は、今年度は短期講座を実施していないためである。しかし、講師に講座内容の見直しを依頼したり、新たな講座を設けたりするなどの工夫をして企画運営した。その中で、エクササイズを兼ねた「シェイプア

ップ with Dance」・「ヨガ」・「バランスボール・ピラティス」や新設の「手捏ねパン」の講座は女性に人気があり好評であった。

サークル活動総数は、10,182名であり、前年度に比べて63名の増加となり、趣味を共有しながら年間を通して活動した。

年1回のスポーツイベントである福島県勤労青少年ホーム交歓会は、須賀川市須賀川アリーナで開催された。当ホームからは16名が参加し、114名の県内会員と情報交歓しながら親睦を深めることができた。バドミントン種目に2チームが参加し、これまでの練習の成果を互いに分かち合いながら、親睦を深めることができた。

勤労青少年の日記念事業である「勿来ホーム祭」は、台風による悪天候にもかかわらず早朝から多くの市民が来館し、成果発表や作品展示などを楽しみながら参観することができ、好評を博した。

これらの各事業においては、ホームページや広報誌をはじめ、各講座の案内チラシを通して、最新情報の提供を行うとともに、運営委員会の意見などを反映しながら、市民サービスを最優先として効果的な管理運営に努め、勤労青少年ホームとしての役割を果たすことができるよう取り組んできた。

勿来勤労青少年ホームは昭和48年に開設されたが、今年度末をもってその役割を終え、46年間にわたる歴史に幕を閉じることになった。新年度から、金山公民館に生まれかわる。

3 管 理 部 門 （ 法 人 会 計 ）

(1) 業務執行体制等

各施設の業務仕様書による適正人員を基準に、退職者補充および新規指定管理施設の勿来関文学歴史館の受託に合わせて2名の職員を採用、施設の事業量を考慮した人員配置と円滑な業務運営に努めた。

また、平成30年度で指定管理期間が終了する6施設に関しては、選考の結果、新たに6施設の指定管理者としての決定を受け、今後5か年の業務が確保された。市勿来勤労青少年ホームについては、市の公民館移行に伴い指定管理が終了した。

(2) アクションプラン(行動計画)の作成

年度当初に設けた行動計画は、中間時点の10月に現状整理・評価を実施することにより、問題点や課題を指摘し職務を遂行した。

(3) 情報開示

本財団ホームページに、財務諸表および指定管理受託施設の事業計画や、「出前講座」の募集等の詳細な情報提供を迅速に行った。

さらに、『年報－平成29年度版－』を刊行し、関係機関等に配布した。

(4) 職員研修

基本研修は、2名の新規採用職員を対象にふくしま自治研修センターの「新規採用職員研修」及びいわき労働基準協会の「安全教育講座」に派遣して実施した。また、財団独自の研修は、財団職員を講師に諸規程や安全教育・専門研修について実施した。

職員の資質向上のための自主研修及び図書購入補助制度に関しては、自主研修は8名が計画・実行し、図書購入補助には8名の申請があった。

また、業務に関する安全衛生関係の資格取得等については、各施設や業務において必要な研修・講習に参加している。

さらに、事業団職員の資質の向上と調査研究の成果を市民に還元することを目的としている「研究紀要」第16号は、財団設立40周年記念論集とし、11本の原稿により刊行した。

(5) 啓発・広報等

出前講座は、16団体(小学校1、中学校2、公民館11、その他2)、計39回の講座依頼があり、延べ1,103名が受講した。今後とも、財団の専門性を活かし、各分野において市民に還元していく。

「たからものずかん」は、暮らしの伝承郷が担当し、第6巻『古い道具と昔の暮らし』を刊行した。小学校や各種施設に配布するとともに、来館者等への使用を想定している。

財団設立40周年記念事業「石城建国千三百年祭」は、考古資料館を中心に、特別展「石城国建国千三百年展－いわきの始まり－」、講演会「古代国家と石城国」・報告会「石城国建国をめぐる研究の現状と課題」、講座「いわきの考古学講座」全6回、史跡探訪会「石城国」・「石背国」を開催した。いずれの企画も、多数の受講者があり、古代に関する市民の関心の高さがうかがえた。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
定時	第1号 第2号 第3号 第4号	平成29年度決算の承認について 評議員の選任について 理事の選任について 監事の選任について	平成30年6月25日	平成30年6月25日

2 理事会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号 第2号	平成29年度決算の承認について 平成30年度定時評議員会の招集について	平成30年5月25日	平成30年5月25日
第2回 書面決議	第1号	理事長、副理事長及び常務理事の選定について	平成30年6月25日	平成30年6月25日
第3回	第1号	給与等に関する規程及び定年退職者の再雇用に関する規程の改正について	平成30年12月21日	平成30年12月21日
第4回	第1号 第2号	平成31年度事業計画及び収支予算について 平成31年度臨時評議員会の招集について	平成31年3月21日	平成31年3月21日

3 役員等に関する事項

評議員7名、理事8名、監事3名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
就任	平成30年6月25日	監事 澤田 洋一	
辞任	平成31年3月31日	評議員 柳沼 広美	

IV 職員に関する事項

平成31年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	1	1	—	1	4
調査係	—	1	—	3	1	—	6	11
計	1	4	0	4	2	0	7	18

2 施設

区分	館長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	2	2	1	—	—	—	3	8
伝承郷	1	—	1	1	1	—	3	7
勿来関 文学歴史館	1	1	—	—	1	—	2	5
アンモナイト センター	(1)	—	—	—	1	1	4	6 (1)
考古資料館	1	(1)	—	(1)	(1)	—	2	3 (3)
いわき海浜 自然の家	1	1	2	3	—	3	5	15
生涯学習 プラザ	1	1	1	1	1	—	6	11
勿来勤労 青少年ホーム	1	—	—	—	—	—	3	4
計	8 (1)	5 (1)	5	5 (1)	4 (1)	4	28	59 (4)
合計	9 (1)	9 (2)	5	9 (1)	6 (1)	4	35	77 (4)
前年度 合計	10	7 (2)	5	6	9 (2)	4	41	82 (4)

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	15
2 正味財産増減計算書	16
3 財務諸表に対する注記	19
4 財産目録	21

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	200,651,323	188,667,260	11,984,063
未収金	7,267,015	10,619,539	△3,352,524
前払金	306,681	147,473	159,208
立替金	84,209	117,446	△33,237
仮払金	14,640	14,640	0
未経過通信運搬費	3,810	1,585	2,225
未経過租税公課	29,200	8,000	21,200
流動資産合計	208,356,878	199,575,943	8,780,935
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			
器具・備品	13	13	0
リース資産	14,326,701	0	14,326,701
電話加入権	9,000	9,000	0
その他固定資産合計	14,335,714	9,013	14,326,701
固定資産合計	24,335,714	10,009,013	14,326,701
資産合計	232,692,592	209,584,956	23,107,636
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	62,320,897	64,926,082	△2,605,185
未払消費税	7,194,500	4,768,000	2,426,500
預り金	3,832,271	3,332,945	499,326
賞与引当金	11,658,196	11,725,202	△67,006
短期リース債務	14,877,143	0	14,877,143
流動負債合計	99,883,007	84,752,229	15,130,778
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	99,883,007	84,752,229	15,130,778
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	122,809,585	114,832,727	7,976,858
正味財産合計	132,809,585	124,832,727	7,976,858
負債及び正味財産合計	232,692,592	209,584,956	23,107,636

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 (A)	1,000	1,000	0
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
② 事業収益 (B)	550,947,027	545,381,799	5,565,228
文化財調査受託料	116,742,600	148,185,720	△31,443,120
施設指定管理料	420,552,162	384,013,000	36,539,162
1 市立草野心平記念文学館	68,670,000	68,483,000	187,000
2 市草野心平生家	3,151,000	3,151,000	0
3 市暮らしの伝承郷	40,842,000	40,842,000	0
4 市勿来関文学歴史館	32,909,000	0	32,909,000
5 市アンモナイトセンター	17,211,000	17,073,000	138,000
6 市考古資料館	13,459,000	13,264,000	195,000
7 県いわき海浜自然の家(県)	145,100,000	142,258,000	2,842,000
8 市生涯学習プラザ	86,213,000	86,027,000	186,000
9 市勿来勤労青少年ホーム	12,997,162	12,915,000	82,162
施設事業受託料	7,639,105	7,010,909	628,196
1 いわきヒューマンカレッジ	3,780,000	3,633,000	147,000
2 未来キッズ生き生き事業	3,578,305	3,377,909	200,396
3 勿来関公園体験学習施設管理事業	280,800	0	280,800
施設利用料	6,008,180	5,779,960	228,220
出版物頒布料	4,980	392,210	△387,230
③ 受取負担金 (C)	0	0	0
講師派遣料	0	0	0
④ 受取寄附金 (D)	0	0	0
寄附金	0	0	0
⑤ 雑収益 (E)	763,576	2,162,533	△1,398,957
受取利息	5,511	11,811	△6,300
雑収益	758,065	2,150,722	△1,392,657
経常収益計 (A~E)=(F)	551,711,603	547,545,332	4,166,271
(2) 経常費用			
① 事業費 (G)	517,694,336	534,128,520	△16,434,184
給料手当	116,138,521	122,180,210	△6,041,689
賃金	107,715,997	119,970,630	△12,254,633
賞与引当金繰入額	10,580,470	10,323,734	256,736

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
共済費	39,657,553	38,469,501	1,188,052
報償費	6,692,610	6,932,820	△240,210
旅費	5,028,856	5,948,658	△919,802
消耗品費	12,029,547	15,681,229	△3,651,682
被服費	315,930	513,742	△197,812
燃料費	7,841,327	7,925,076	△83,749
食糧費	421,845	412,931	8,914
印刷製本費	16,027,017	11,123,569	4,903,448
光熱水費	32,943,661	30,615,011	2,328,650
修繕費	7,350,760	9,253,190	△1,902,430
医薬材料費	43,169	67,865	△24,696
通信運搬費	7,262,122	5,982,496	1,279,626
広告料	532,502	343,902	188,600
手数料	1,155,002	1,386,907	△231,905
保険料	1,184,291	1,551,551	△367,260
委託料	80,889,878	80,935,099	△45,221
使用料及び賃借料	20,565,070	39,101,072	△18,536,002
工事請負費	2,600,770	1,617,273	983,497
原材料費	377,554	330,169	47,385
負担金	252,500	297,752	△45,252
公租公課	22,445,455	22,158,570	286,885
消耗什器備品費	1,618,380	1,005,563	612,817
減価償却費	15,155,040	0	15,155,040
支払利息	868,509	0	868,509
② 管理費	25,475,516	28,954,480	△3,478,964
報酬	224,100	265,600	△41,500
給料手当	9,054,635	14,035,193	△4,980,558
賃金	4,393,121	3,782,127	610,994
賞与引当金繰入額	1,077,726	1,401,468	△323,742
共済費	3,790,484	3,823,212	△32,728
報償費	138,600	277,034	△138,434
旅費	249,713	233,085	16,628
交際費	5,000	15,000	△10,000
消耗品費	363,011	418,587	△55,576
燃料費	64,824	54,301	10,523
食糧費	18,312	16,116	2,196
印刷製本費	1,048,248	556,146	492,102

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
光熱水費	94,964	103,081	△8,117
修繕費	0	0	0
通信運搬費	236,196	236,906	△710
広告料	0	0	0
手数料	384,150	381,347	2,803
保険料	73,320	73,870	△550
委託料	236,856	174,554	62,302
使用料及び賃借料	1,007,407	998,097	9,310
原材料費	0	0	0
負担金	475,798	335,416	140,382
補償費	12,816	0	12,816
公租公課	2,526,235	1,773,340	752,895
消耗什器備品費	0	0	0
経常費用計 (G+H) = (I)	543,169,852	563,083,000	△19,913,148
当期経常増減額 (F-I) = (J)	8,541,751	△15,537,668	24,079,419
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (K)	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 過年度損益修正損			
リース料修正損	564,893	0	564,893
経常外費用計 (L)	564,893	0	564,893
当期経常外増減額 (K-L) = (M)	△564,893	0	△564,893
当期一般正味財産増減額 (J+M) = (N)	7,976,858	△15,537,668	23,514,526
一般正味財産期首残高 (O)	114,832,727	130,370,395	△15,537,668
一般正味財産期末残高 (N+O) = (P)	122,809,585	114,832,727	7,976,858
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
一般正味財産への振替額	△1,000	△1,000	0
当期指定正味財産増減額 (Q)	0	0	0
指定正味財産期首残高 (R)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高 (Q+R) = (S)	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高 (P+S)	132,809,585	124,832,727	7,976,858

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

平成26年度より公益法人会計基準（平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）

(2) 固定資産の減価償却方法

器具・備品 定率法

リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

(3) 引当金の計上基準

・退職給付引当金

期末在職者の退職金支給に備えるため、中小企業退職共済制度に加入しており、同制度による給付額と退職金要支給額が同額であるため、退職給付引当金は計上していない。

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、当期に帰属する期間の支給見込み額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引（所有権移転外ファイナンスリース）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

なお、重要性の乏しいリース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

（会計方針の変更）

当期よりリース取引に関する会計基準を適用し、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買処理に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上している。リース資産の減価償却方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっている。

なお、重要性の乏しいリース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

また、リース資産計上による当期の影響額は、過年度損益修正損（リース料修正損）564,893円である。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円
合 計	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円

3 基本財産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—
合 計	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—

4 固定資産の取得価額、減価償却及び償却額累計額及び当期末残高及び減損損失

固定資産の取得価額、減価償却及び減損損失累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却及び 減損損失累計額	減価償却	当期末残高
器具・備品	7,541,762円	7,541,749円	0円	13円
リース資産	47,453,239円	17,971,498円	15,155,040円	14,326,701円
電話加入権	449,904円	440,904円	0円	9,000円
合 計	55,444,905円	25,954,151円	15,155,040円	14,335,714円

5 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	7,267,015円	0円	7,267,015円
合 計	7,267,015円	0円	7,267,015円

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益 基本財産受取利息	1,000円
合 計	1,000円

財 産 目 録

平成31年 3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	事務局、施設 7 か所	手許保管	291, 730
郵便振替	ゆうちょ銀行	運転資金	94, 110
預金	普通預金		
	東邦銀行湯本支店 (No.550278)	運転資金	151, 706, 231
	東邦銀行湯本支店 (No.645023)	運転資金	0
	東邦銀行湯本支店 (No.771207)	運転資金	0
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165667)	運転資金	5, 619, 678
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165675)	運転資金	2, 754, 652
	大東銀行湯本支店 (No.1320261)	運転資金	87, 611
	福島銀行湯本支店 (No.1020548)	運転資金	97, 311
	大和ネクスト銀行ナイ支店 (No.2720140)	運転資金	0
	定期預金		
	いわき信用組合湯本支店 (No.0457549)	運転資金	10, 000, 000
	大東銀行湯本支店 (No.2106944)	運転資金	10, 000, 000
	福島銀行湯本支店 (No.3239363)	運転資金	10, 000, 000
	大和ネクスト銀行ナイ支店 (No.2720140)	運転資金	10, 000, 000
未収金	いわき市、檜葉町、福島県、民間業者	文化財調査受託料未収等	7, 267, 015
前払金	福島労働局	労働保険料確定過払額	306, 681
立替金	いわき市	2 月分藤原収蔵庫電気料金	84, 209
仮払金	草野心平記念文学館	H31. 4. 2出張旅費分前渡	14, 640
未経過通信運搬費	切手	在庫	3, 810
未経過租税公課	印紙	在庫	29, 200
流動資産合計			208, 356, 878
(固定資産)			
基本財産			
定期預金	東邦銀行湯本支店 (No.96210634)	市出捐金	10, 000, 000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公 1 事業目的保有財産	13
リース資産	パソコンインフォメーション機器、マイクロバス	公 2 事業目的保有財産	14, 326, 701
電話加入権		公 1・法人会計事業目的保有財産	9, 000
固定資産合計			24, 335, 714
資産合計			232, 692, 592
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員 3 月分賃金等	10, 911, 588
	物件費	業者に対する未払額	51, 409, 309
未払消費税	いわき税務署	30年度消費税	7, 194, 500
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		3, 832, 271
賞与引当金			11, 658, 196
短期リース債務			14, 877, 143
流動負債合計			99, 883, 007
固定負債合計			0
負債合計			99, 883, 007
正味財産			132, 809, 585